

大豆

1. 作付の概況

本年度の作付面積は全国で 147,100ha で前年より 8,800ha (6%) 増加し、九州でも 1,100ha 増加し 23,400ha であった。県別では福岡県、佐賀県、長崎県、熊本県で増加し、大分県、宮崎県、鹿児島県で減少した。佐賀県は作付面積が 1,030ha 増加した。本年度は主産地の北部九州で大きな気象災害はなく、収穫量は九州で前年対比 119 となり、2年連続の豊作となった。

2. 作況の概況

梅雨明けが早く、適期の7月上中旬に概ね計画的に播種できたが、一部圃場で乾燥による出芽苗立ち障害があった。また、降雨（夕立）で中耕培土作業に支障をきたした地域もあったが、生育は概ね旺盛であった。開花期以降はやや高温で推移し9月頃までは適度な降雨で、粒肥大期の10月以降はほとんど降雨がなく順調に登熟した。

福岡県は生育前半が平年より約2℃高く、日照時間も多かったため生育旺盛となり、開花期以降の適度な降雨で莢数や精粒数が多く多収となった。ハスモンヨトウやミナミアオカメムシの発生が認められたが大きな問題にはならなかった。紫斑病の発生は例年より多かった。佐賀県は適期に播種できたが、乾燥で出芽苗立ちの遅れた圃場もあった。生育前半は乾燥で生育量が小さく経過したが、8月中旬以降の降雨で旺盛な生育となった。着莢期から若莢期は適度な土壌水分があり、粒肥大期は高温少雨で経過し登熟は順調であった。長崎県は適期播種で、9月中下旬に平年の倍程度の降雨があったが順調に生育した。雑草が多く、ミナミアオカメムシの被害が顕著な圃場もあった。熊本県は播種苗立ちは順調で、生育前半は高温多照傾向で旺盛な生育をした。一部で登熟期前半の降雨による倒伏が認められたが、全体に粒の肥大は良好であった。登熟後期は日照時間が少なく成熟が遅れ、播種の遅れた圃場や高標高地の圃場で晩秋の低温による登熟障害があった。全体としては生育旺盛で収量が多く平年より大粒傾向であった。大分県も適期播種で着莢期から若莢期に適度な降雨があり、その後の気象条件も良く大粒傾向で多収となった。マルカメムシの発生が多かったがカメムシ類被害は平年より少なかった。宮崎県は平年並かやや早めの播種で出芽も良好であったが、一部圃場で局地的降雨による出芽不良があった。播種期が早く台風の影響による長雨で草丈が高く、やや軟弱徒長傾向となった。9月下旬から10月は気温が高くて成熟が遅れ、カメムシ類の多発による吸汁害も多発した。また、天候不順で収穫に支障の生じた地域もあった。莢数は多かったが、開花以降の曇雨天による湿害と高温による生育遅れ、カメムシ類の被害で収量が平年以下の地域もあった。紫斑病も多く認められた。鹿児島県は播種および初期生育は順調であったが、開花期以降登熟期まで平年より高温多雨寡照で経過し、収穫期の低温多雨で検査等級が下がり、収穫を断念した圃場もあった。

2008年産大豆作付面積と収穫量

県別	作付面積	10a 当たり 収量	収穫量	作況 指数	前年との比較								
					作付面積		10a当たり収量		収穫量				
					対差	対比	対差	対比	対差	対比			
ha	kg	t	ha	%	kg	%	t	%					
全 国	147,100	178	262,100	109	8,800	106	14	109	35,400	116			
九州計	23,400	215	50,400	128	1,100	105	96	114	8,200	119			
福岡	8,110	217	17,600	128	130	102	28	115	2,500	117			
佐賀	9,000	255	23,000	137	1,030	113	27	112	4,800	126			
長崎	520	180	936	131	47	110	△	4	98	66	108		
熊本	2,990	171	5,110	107	20	101	11	107	350	107			
大分	2,090	134	2,800	123	△	70	97	37	138	700	133		
宮崎	361	129	466	95	△	28	93	25	84	△	133	78	
鹿児島	336	131	440	90	△	27	93	△	35	79	△	163	73

注) 2008年産は農林水産省の2009. 3. 3公表データ、2007年産は2008. 4. 17公表データを引用